

第2学年 国語科指導案

日時 令和元年9月10日(火) 5校時

児童 男子10名 女子6名 計12名

指導者 教諭 三上 真智子

1 単元名 せつめいのしかたに気をつけて読もう

題材名 「しかけカードの作り方」

2 構想表

指導について

手立て1 課題提示や教材提示の工夫

生活科で1年生を招待して「おもちゃランド」を開くにあたり、どんなおもちゃを作るかをお互いに紹介するために説明書を書くという言語活動を行う。これによって相手意識や目的意識をもたせ、分かりやすい説明書を書こうという意欲を高め、工夫を読み取る学習に取り組みさせる。

教材提示では、子どもたちが自ら答えを見つけたいと思える場の設定として、段落の順序を変えて文章にしたり、文章の一部を隠したりという工夫を行う。そうすることにより、一人一人が主体的に取り組むことができ、一人一人の読みが深まるのではないかと考えられる。

手立て2 学習形態の工夫

自力解決では、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをもつ。答えが見つけれない子や自信がない子もペアで交流するという段階を設けることで不確かな読みが確実にとなると考えられる。

学び合いでは、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことを目標としている。グループ(3人)での話し合いを取り入れることで、ペアの時よりも活発な話し合いの場となる。また、教師が児童の発言内容をつなげたり再確認したりすることで共有化を図りたい。

手立て3 観点を明確にした振り返り

振り返りの観点を明確にし、単元のねらい「せつめいのしかた」に触れている児童を紹介し、全員で共有する。また、それを次時の導入でも取り上げていく。

児童について

児童はこれまでに、説明文の学習では、時間的順序を意識して読んだり、わけを表す叙述に着目して考えたりすることを大切にしてきた。また、動作化を学習活動に取り入れることで、内容や細かな表現を確認しながら読んできた。長い文章を正確に読むことがまだ難しい児童がいるため、挿絵や写真が読み取る上で大きな助けになっている。音読や動作化には意欲的に取り組むが、読み取りや書く活動は苦手な児童も多い。文章を正確に読む力を付けることと書く力を伸ばすことが課題である。

教材について

本単元は、「読むこと」「ア時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容全体を捉えること」であり、「段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること」へと発展していく。

「しかけカードの作り方」は、書かれた内容を確認しながら、実際に「しかけカード」を作るため、児童が楽しみながら説明の工夫を読み取る教材である。作業を伴う文章であるため、何度も確かめながら読む必然性がある。作り方の説明もまとまりごとに、作業の手順に沿って書かれており、文章だけでは説明が難しいところは、写真や数値を用いて詳しく表現するなど、読み手に分かりやすい説明の工夫がとられている。そこで、叙述に沿って「しかけカード」を作り、内容を十分に読み取らせて、次の教材「おもちゃの作り方」で、おもちゃ作りの説明を手順に沿って工夫しながら書いていく活動につなげたい。これは、さまざまな場面で生かすことのできる読解の経験となり、生活に直結する力が育てられると考えられる。

3 単元の目標・評価規準

(1) 目標

【知識及び技能】

・ 順序を表す言葉の使い方や表現の意味を理解すること。

【思考力・判断力・表現力等】

・ 読むことにおいて時間的な事柄の順序を考えながら、内容の大体をとらえること。

【学びに向かう力・人間性等】

・ 作り方を説明するために、しかけカードの作り方に興味をもち、分かりやすい説明のしかたを読み取ろうとしている。

(2) 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・ 文章の役割や順序を表す言葉の使い方を理解している。	・ 読むことにおいて時間的な事柄の順序を考えながら、分かりやすい説明の工夫をとらえている。	・ 意欲的に作り方を説明した文章に興味をもって読もうとする中で、どう自分の学びを調整しようとしている。

4 単元の指導計画（全6時間）

段階	学習活動	評価
第一次 単元のねらいを知り、学習の見通しをもつ。 (2時間)	1 説明の工夫が書いていない文や写真を見て、しかけカードを作る。 2 学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。	主 しかけカードの作り方に興味をもち、分かりやすい説明のしかたを読み取ろうとしている。(発言・観察)
第二次 どんな言葉や表現が説明を分かりやすくしているか考える。 (4時間)	3 初め、〈ざいりょう・どうぐ〉を読み、材料と道具を分けて書いていることを確認する。 4 〈作り方〉④～⑥でどんな言葉や表現が分かりやすくしているかを見つける。 5 〈作り方〉⑦～⑨でどんな言葉や表現が分かりやすくしているかを見つける。【本時】 6 全文を読んで、分かりやすい説明のしかたをまとめる。	思 事柄の順序を捉えつつ、写真や文を照応させながら読んでいる。(発言、学習シート) 知 順序を表す言葉の意味を理解している。(観察・学習シート) 思 しかけカードを作ったときの体験をもとに、文章を読みながら、説明の工夫を見つけている。(観察・発言)

5 本時について（5/6）

(1) 目標 〈作り方〉の中で使われている説明の工夫をまとめることができる。

(2) 展開

段階	学習内容と活動	・指導上の留意点 ◆手立て □評価
導入 5分	1 前時までの学習を想起する。 ・前時までの説明の工夫について振り返る。 2 本時の課題を確認し、見通しをもつ。 ・学習段落を確認する。(⑦～⑨段落) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ㉔作り方のせつめいのくふうを見つけよう。 </div>	◆前時までの説明の工夫を掲示や振り返りカードをもとに想起させる。〈手立て1〉
展開 35分	3 学習の見通しをもつ。 ・〈作り方〉⑦～⑨の場面を音読する。 4 ⑦の場面の説明の工夫を読み取る。 ・2つの失敗例の理由をグループで話し合う。 ・工夫があるとわかりやすい説明になることを確認する。 5 ⑧の場面の説明の工夫を読み取る。 ・写真だけ見て作った失敗例を見せ、どの文章が大切かを話し合う。 ・写真と文を合わせて書くとわかりやすい説明になることを確認する。⑥での工夫と同じことに気付かせる。 6 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ㉕しっばいしやすいところのちゅういが書いてある。 </div>	・前時はカードで、本時は飾りの場面であることに気付かせる。 ・学び合いでわかったことをもとにまとめていく。 ◆グループごとに話し合ってから発表させる。(手立て2) □文章を読みながら、説明の工夫を見つけている。(観察・発言) ・⑨の「これで、～のできあがりです。」の役割についても触れる。 ・前時までの掲示や板書をもとに、まとめをそれぞれノートに書く。
終末 5分	7 本時の学習を振り返る。 ・観点に沿って、振り返りカードに記入する。 8 次時の学習内容を確認する。	・説明の工夫の良さについて振り返りを書かせる。

(3) 板書計画

せつめいのしかたに気をつけて読もう
しかけカードの作り方
 ㉗㉘㉙だんらく

㉗こんどは、小さい色画用紙で、しかけの台にはるかざりを作ります。

失敗例 ア
かざりが大きすぎる

失敗例 イ
かざりが小さすぎる

㉘さいごに、しかけの台に、のりでかざりをはります。

写真

しゃしんだけでは、分かりにくい。
ことばでもせつめいしている。

かざりの右はしを、台の右はしにそろえてはります。

しっばいしやすいところ
気をつけるところを書く

㉙これで、しかけカードのできあがりです。

㉕せつめいのくふう
しっばいしやすいところの
ちゅういが書いてある。